

## 連動性が高まる中国の輸入と先進国景気 ～足元では増勢鈍化ながら、徐々に持ち直し～

- (1) 中国の輸入が鈍化傾向。2011年6月には前年同月比+19.3%にまで伸び率が低下(図表1)。国内景気の減速が主因。
- (2) 近年、中国の輸入と世界景気の連動性が高まる方向。この背景には、世界経済に占める中国経済のシェアが拡大した結果、各国経済の対中輸出依存度が高まっていることを指摘可能。とりわけ、先進国景気との連動性が明確に。リーマン・ショック後、中国の輸入とOECDの鉱工業生産指数は、ほぼ連動して推移(図表2)。なかでも、米国のGDPは中国の輸入に遅行して動く様子がみられ、米国景気が中国景気に大きな影響を受けるようになっていることを示唆(図表3)。以上を踏まえると、足元の中国の輸入鈍化は、先進国景気の減速要因とみることが可能。
- (3) 当面を展望しても、中国国内での在庫調整により、中国の輸入は一段と鈍化するリスクも。もっとも、PMI新規受注指数が足元で改善に転じていることなどから判断すると、輸入の鈍化は短期的・一時的にとどまる公算大(図表4)。中国は高成長過程に復帰すると予想され、それに伴って、先進国経済を押し上げる力が徐々に回復する見通し。

